

# 平成 31 年度事業計画書

2019 年 4 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日まで

認定 NPO 法人 心の架け橋いわて

## 1 事業の計画

前年度に引き続き、岩手県大槌地区を主たる対象とする長期被災地支援活動を行う。原則的に毎月第 2 および第 4 週末の活動とし、これまでと同様、震災ストレス相談室、被災者宅同行訪問、多職種専門家チームによるアウトリーチ（こころがけ訪問）、サロン等による予防的啓発活動（こころがけサロン）、大槌活動拠点（こころがけベース）におけるコミュニティ・カフェ運営（こころがけカフェ）、災害メンタルヘルス専門家育成、他支援団体における支援者支援を活動の柱とする。サロン活動については、引き続き他支援団体との連携のもとに巡回型と拠点型とをバランス良く企画し、地域支援メンバーと遠隔支援メンバーが相補的に協働して運営にあたる。懸案のアーカイブ作成については、昨年度岩手県の予算で作成した 2017・2018 年度の活動報告を雛形として 2011 年度より 2018 年度までの活動報告書を作成し関係者に配布する。また、アーカイブ作成作業と併行して認定 NPO 法人の継続審査作業を行い、両者とも年内の終了を目指す。

## 2 事業の実施に関する事項

### (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施 日時	実施 場所	従事者の 人数	受益対象者の範囲及び 人数	事業費の金額 (千円)
①関係機関、団体との連携による、メンタルヘルスに関わる予防、啓発、相談事業	被災者支援活動：岩手県こころのケアセンターにおける震災ストレス相談対応、精神障がい者宅への多職種アウトリーチ、こころがけベースにおけるコミュニティ・カフェ開設、こころがけベース、仮設住宅集会所、公民館等におけるサロン活動と相談対応  支援者支援活動：地域の高齢者、児童、障がい者支援における連携・協働  (震災ストレス相談室における相談事業は岩手医科大学の予算により金曜日に実施する)	1 か月に 2 回 原則として金曜から日曜日まで	岩手県大槌町および近隣地区	25 名	住宅訪問と相談対応：被災地住民 80 名 (延べ) コミュニティ・カフェとサロン参加者：被災地住民および医療機関支援者 800 名 (延べ)  支援団体：町役場、社会福祉協議会等 7 カ所。	10,492

②ICT機器を活用したメンタルヘルスサービスの提供	インターネット、遠隔テレビ会議システムの活用により支援者間および関係団体との情報共有を効率化し、医療過疎地への遠隔メンタルヘルス支援を実施する。	随時	岩手県大槌町、同釜石市、同盛岡市、山形県山形市、福島県相馬市、東京都千代田区、神奈川県横浜市、千葉県千葉市、静岡県静岡市など	30名	こころがけ活動メンバー25名およびインターネットに接続できる環境がある関係者、特定非営利活動法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会（なごみ）一般社団法人震災こころのケア・ネットワークみやぎ（からこころステーション）	577
---------------------------	--	----	--	-----	--	-----

③災害復興に精通するメンタルヘルス専門家の育成	日本精神科診療所学会への参加および発表	6月	埼玉県さいたま市	2名	学会参加者約500名	60
	日本精神科救急学会への参加および発表	10月	宮城県仙台市	3名	学会参加者約500名	

④社会活動を行っている団体間の協力、支援、ネットワーク構築に関する事業	遠野サイエンスカフェへの講師派遣	8月	岩手県遠野市	3名	慶応大学リーディング大学院スタッフ、岩手県の教員、自治体職員、学生など約30名	100
	第8回東北みらい創りサマースクールへの講師派遣	9月	岩手県遠野市	3名	岩手県の被災地支援団体関係者、教員、自治体職員、学生など50名	100
	福島県のなごみ、宮城県のかろころステーションとの共同シンポジウム	3月	宮城県石巻市	3名	東北地域の支援者など約100名	60

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
アーカイブ作成	2011年以来の活動記録書の作成、印刷、配布。今後の活動に関するニーズ調査。	6月-12月	盛岡および東京	5名	当法人新旧活動メンバー、被災住民、産学官民の被災地支援関係者	2,000